

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1472500477
法人名	医療法人社団柏信会
事業所名	グループホーム「櫻」
訪問調査日	平成19年12月6日
評価確定日	平成20年1月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 年 月 日

【評価実施概要】

事業所番号	1472500477
法人名	医療法人社団柏信会
事業所名	グループホーム「櫻」
所在地	249-0005 逗子市桜山6-1326 (電話) 046-873-8347

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F
訪問調査日	平成19年12月6日
評価確定日	平成20年1月31日

【情報提供票より】(平成19年11月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 5月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	23 人
利用定員数計	18 人
常勤	11 人
非常勤	12 人
常勤換算	7.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	50,000 円	
敷金	有(200,000 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1300 円			

(4) 利用者の概要(11月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	10 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 86 歳	最低 72 歳	最高 99 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	青木病院、堀内歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームの理事長は高齢者医療の大家でさらにケアマネ資格も持つ医療・介護に通じた経営者ある。同一敷地内に青木病院、その付属施設である青木病院通所リハビリセンター、青木病院居宅介護支援センターそして介護老人保健施設「グリーンハウス逗子」を持ち介護も看護も十分にノウハウを有する。利用者さん及びご家族は「病院・老健が同じ敷地内にあって安心」と思っている。事実、緊急時に信頼できるのは云うまでも無い。地域密着については通所リハビリ老健、「グリーンハウス逗子」及び居宅介護支援センターなどのルートから気軽にグループホームにアプローチ出来る体制が備わっている。また隣が関連の青木病院で、医療に関するサポートを常に受けられる体制にあり、看護部長による1日1回の巡回、食材の共同仕入れと栄養士によるカロリー指導など他に見られない協力を得ている。防災用非常食の整備も心がけ、利用者・スタッフ全員に対する2日分の非常食の備蓄が調った。他の防災についても今後整備して行く予定にしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での指摘事項は無かったが、評価のプロセスに於いて書類が一部重複しているのではとの話が出た。これを受けて改善に取り組んだ。連絡ノートと業務日誌を一体化した新業務日誌、項目や書き易さを工夫改善した個人記録、不眠の方のチェックのための入眠時刻表など書式の改善、統一、簡素化を図った。記録のために介護が手薄にならないことが現場の使命であり、今後も改善に取り組んで行く。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価については個人別に用紙を配布し記入してもらった。特に理念については「理念に対する今後の実践」なる用紙を配布し、項目別に、具体的に実践案を記入してもらいこれを集計して基礎データとした。これらを基に管理者が纏め自己評価を作成した。個人の実施案についてはカンファレンスで検討し、優先順位をつけて実施して行く予定にしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議については平成18年12月に第1回目を開催して以来、2ヶ月に1回ずつ計6回実施済である。事務長の人脈もあり、設立の経緯で逗子市との関係も深く、逗子市介護保険課の方が運営推進会議のメンバーとして当初から参加してくれている。メンバーの民生委員は逗子市民生委員・児童委員協議会の会長であり、両メンバーの地域とのパイプは太い。開催は月末の火曜日午後と決めており、メンバーが出席しやすいよう配慮している。運営推進会議の議事、主な資料(公開可能なもの)については自ホームのホームページに公開している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご家族は比較的良く訪問してくれている。ご家族の居住地域も比較的近い所の人が多い。家族会として無理に纏めることより、その盛り上がりを助長する意味も含めて広報誌「さくら」を発刊、年3回以上の大きなイベントへのご招待、個人別お誕生日会への参加など集まる機会や情報の提供に努めている。広報誌「さくら」は毎月発刊、写真を中心とした分かり易い情報誌となっていて好評である。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>柏信会の理事長は青木病院の院長で高齢者医療の大家でさらにケアマネ資格も持つ医療・福祉のオーソリティで地域に知名度が高い。設立時点が逗子市との協調体制でスタートしており、広く地域と行政に太いパイプがあり、今回の運営推進会議で葉桜自治会とのパイプが出来たので一層地域との密着度が深まった。青木病院を中心とした知名度は地域に浸透している。</p>
重点項目④	

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念については以下6項目を掲げ、内容を判り易く補足し施設内の見やすい場所に掲示している。1.「家庭的な生活環境」の提供 2「残存能力を生かした生活」の推進 3「尊厳ある生活」の重視 4「楽しみ」の提供 5「安心感」の醸成 6地域社会とのつながりの重視。		理念に沿って展開している。地域密着は開設時より意識している。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有は図られているが、採用時期等の関係でその実践取り組みは同一レベルに達していないが、機会教育等を通じレベルアップを図り、その実践に日々勤めている。		教育、相対的レベルアップを常に行っている。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会から運営推進会議委員の推薦を受け、日々の活動状況を周知して頂き、町内の催し物に参加させて頂いている。また、近隣のお店に出向き買い物や飲食でご協力を得ている。逗子市文化プラザ等にも出向き、各種催し物に参画し交流を図っている。		特に逗子市とのパイプは太い。今回の運営推進会議で葉桜自治会とのパイプが出来たので一層地域との密着度が深まった。青木病院を中心とした知名度は地域に浸透している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	新規採用者を除く職員全員がその意義を理解している。自己評価に当たっては全職員が評価項目を各自評価してすりあわせを行い、「櫻」としての自己評価として公表している。具体的改善については個々の意見をミーティングに図り可能なものから全員で取り組んでいる。		今後も継続して実施して行く。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施される運営推進会議において、運営状況及び活動状況等を報告。意見交換等を行いその結果をサービス向上に反映している。		開催は月末の火曜日午後と決めており、メンバーが出席しやすいよう配慮している。運営推進会議の議事、主な資料(公開可能なもの)については自ホームのホームページに公開している。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護認定審査等の業務の関係で福祉、介護等の担当者と常に連携し情報を交換し協力を得ながらサービスの向上に努めている。		特に逗子市とのパイプは太い。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	介護計画はその都度ご家族へ送付、介護状況を知らせると共に、機関紙「さくら」により主な活動実施状況を写真で、また翌月の行事計画表や連絡事項など定期報告(月1回)として送付している。健康状態については必要の都度個々に連絡相談している。		年3回以上の大きなイベントへのご招待、個人別お誕生日会への参加など集まる機会や情報の提供に努めている。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各種催し物に可能な限りご家族の参加を頂き、行事終了後、管理者を中心に懇談会等を実施、ご意見等を伺い可能な限りご希望に添えるよう努めている。		今後も継続して実施して行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員の固定化に勤め馴染の職員でサービスの向上に努めている。ただし職員の退職、新規採用によるユニット間の交流は必要最小限に努めている。また、利用者のダメージを防止するために、共同の催し物を実施、職員及び利用者の交流を図っている。		今後も継続して実施して行く。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護のマンネリ化を防ぐためにも新しい知識等の吸収は必要であり、介護職の募集難の時代には人材育成は重要な課題である。研修及び講習は機会を見ながら交代で参加させ、その結果は不参加者へミーティングや機会教育の場に生かし還元してその向上を図っている。パート職員の場合は参加時間に対し旅費及び時給を支給し参加意欲を高めている。		今後も継続して実施して行く。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	逗子、葉山地区の同業者ネットワークは完成されていないが、個別的ではあるが相互訪問を行い、サービスの質の向上を図っている。	○	グループホーム「櫻」から各施設に呼びかけを行い、勉強会等の開催に結び付けたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご利用者の状況により入所前に施設を訪問していただき、少しずつ環境等に慣れ親しんでから入居するなど、ご家族の相談に応じご利用者の不安解消に努めている。通所リハビリ老健、「グリーンハウス逗子」及び居宅介護支援センターなどのルートから気軽にグループホームにアプローチ出来る体制が備わっている。		今後も継続して実施して行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者の状況によるが、可能な限り食事、洗濯、掃除、入浴等、一緒に実施するよう全職員が心がけている。相互信頼関係の構築に努め感謝やいたわりなどの声掛けを相互に行えるよう努め、日常会話の中からは先輩の言葉として聞き入るなど一緒に生活を心がけている。		今後も継続して実施して行く。
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフが個々に接し得た希望等はスタッフ全員の情報として共有し、意向に添った同じサービスを提供するように努めている。難しい問題は、ミーティング等に図り検討し、可能なかぎり希望等に添ったサービスの提供に努めている。		今後も継続して実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ミーティング結果、主任等会議結果、個人記録簿、ご利用者ご家族の意見等を常に反映し計画作成に当たっている。		今後も継続して実施して行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間に応じ見直しを実施している。其の期間内変化については、ご家族や職員の意見を反映し、見直すと共に本計画に補足させ現状に対応させ、次回計画作成時の際、改めて検討し新計画に盛り込んでいる。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同一法人が運営する病院、通所リハビリ、在宅介護支援センターや老健施設との連携を密にしており、その多機能性を生かし柔軟な対応をとっている。		今後も継続して実施して行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同一法人の青木病院、歯科医院、皮膚科、眼科の各医院と契約し往診等も可能な支援体制をとっている。また、ご家族の要望があれば他の医療機関等の紹介も実施している。		今後も継続して実施して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に向けた方針の共有は、開設以来日も浅く事例は1件のみで、病院及び家族、職員が相談し最善の方法を検討し実践。入退院を数度繰り返し、最後の入院から2日目で亡くなられた。	○	ご家族に大変感謝された本件の事例を参考に今後の方針を検討し共有化を図り、今後におけるターミナルケアの資としたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉掛けは介護職員の基本出ることを強調。職員には機会を捉えて全員に徹底している。記録書類等、個人情報の取り扱いについても同様に機会教育により、その徹底を図っている。		今後も継続して実施して行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切にを基本としてサービスの提供に心がけているが、グループホームの特性である共同生活介護の観点から非常に難しいサービスでもある。話し合いの中からある程度の制約はやむを得ない。	○	その人らしい生活でもご利用者の状況から、個々のペース配分にはある程度の制約は仕方がないが、可能な限り日々の暮らしに満足いただけるよう努力している。小規模とはいえ集団生活でもある。個人主義は我儘や甘えとなり他の利用者のめいわくにもなり、どこまでがベターか線引きが難しいサービスである。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けについては、無理強いでなく希望を伺い一緒に実施。毎日の献立の中での食材を料理するが、時には全員で外食や喫茶を楽しめるように実践している。		今後も継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴介護が必要な利用者であり、希望やタイミングは一応考慮するも、数人が一人ずつ交代で入浴するため、希望にそぐわない利用者には言葉掛けで誘導することもある。現在のところ特に問題なく、楽しんで入浴されている。		今後も継続して実施して行く。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味や一芸に秀でた方もおられ、裁縫で施設の雑巾やカーテンなど縫ったり、習字の得意な方、折り紙の得意な方などなど得意分野でリーダを努めてもらうなど、其の役割をこなして楽しんでいただいている。また、各種行事のときは代表挨拶など、昔の職歴からお願いしている。		今後も継続して実施して行く。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	可能な限り希望に添うよう努力しているが、施設の立地条件や物理的な面から、一人ひとりの対応は限られ、数人ずつ希望に添って近郷散策等を実施している。天候によってではあるが、敷地内の限られたスペースであるが、屋外のお茶やおしゃべりタイム、花壇の手入れ等を設けている。		今後も継続して実施して行く。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設の立地条件から開放等には無理がある。外部への出入は電子錠でロック(火災発生は自動解除、その他は手動)されているが、室内はすべて鍵のない設計で自由に入出入りができる状態である。	○	物理的に可能な限り屋外へ出られるよう、花壇の手入れ、喫茶など実施した場合は、玄関をオープンし開放感を味わって頂き、また食材の受領や洗濯物干しや取り込み時も開放に心がけている。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者の状態から避難方法を身につけることは困難である。施設としては、建物外周に回廊があり、各階とも階段を使わず脱出出来る構造となっており、設備的には良好な避難環境は整っている。	○	避難先は状況により異なるが、自治会の避難場所でもある小公園を避難先として、運営推進会議委員でもある自治会副会長等に相談中である。すべて職員の付き添い、誘導が必要であるため、職員教育の徹底を図る。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面においては管理栄養士の献立によりバランスの取れた食事を提供。水分補給についても食事、おやつ、湯上りには必ず補給して頂き、要求に応じ何時でも対応している。食事の量も本人の状態により加減し、無理のないように努めている。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	設計の段階から共同空間を考慮し、小規模施設としては例を見ない空間を作り出している。開放的な大きな窓からは季節の風景が絵画のように見られ、室内にも季節折々の花々を飾り心地よい生活空間を提供している。		今後も充分楽しんで頂く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は個室であり、家具等は全てご利用者が持ち込み、配置等も利用者やご家族の希望に添った配置をお手伝いしている。ただし、ご利用者の状態によって安全上の観点からアドバイス等を行っている。		今後も継続して実施して行く。